



専修部 参入
 事業部 参入
 会計監査 留任
 副会長 留任
 会長 辞任

- 1、平成 21 年度事業報告及び決算報告 監査報告 (P3)
- 2、平成 22 年度事業計画及び予算案承認
- 3、役員人事

議案

去る 5 月 15 日 (土) 15 時より杉田地区センターにおいて 23 名出席で、開催されました。始めに出淵会長からの開会の挨拶があり、議長に さん、書記に さんが選出され、議事進行致しました。

**22 年度総会開かれる
 新会長に さん**



横浜陶芸友の会だより

第 143 号
 平成 22 年
 7 月 1 日発行

4、事業部より

○今年の窯場見学は美濃の予定
 ○作品展は 23 年 1 月初旬から中旬。
 課題は「豆皿」3 枚以下

○美術館見学は良い催しがあれば開催

5、専修部より

9 月に秋期焼成会

6、広報部より

広報誌年間 4 号発行。
 以上の議事が承認されました。

記

新会長あいさつ

『会長に就任して』

会員の皆様お元気ですか。新会長になりました。私は、横浜陶芸友の会に入会して二十数年が経ちます。友の会にはたくさんの方々の楽しい思い出があり、多くの方々から様々な影響を受けてきましたので、これからも明るく楽しい会である事を願っています。私の作陶は酒器から始まり、我が家で使う飯茶碗や皿、湯飲

みななど日常雑器の多くが私の作品になっています。粘土を始め釉薬や道具、焼成方法等様々なことを、先輩を始めとする仲間から教えてもらいました。窯場見学会や研修会、作品展、焼成教室、会報、役員会といった各種の行事を通して情報を得る中で、少しずつ作陶の知識や技術を自分の中で消化し、吸収してきた歴史があります。そして何よりも、同じ趣味の仲間と、楽しく語り合えるのは最高の幸せだと思っています。今、友の会は年々会員数が減少しています。どうしたら仲間を増やすことが出来るのか、どうしたら友の会が一人一人の会員にとってより魅力のある会になれるのかを、お互いに声を出し合っていければと思っています。

会員の皆様、これからも仲間同士のお互いを通して、お互いの知識や技術といった陶芸の楽しみを深めていく中で、横浜陶芸友の会の更なる発展に向けて御協力をお願いいたします。

事業部より

平成 22 年度「窯場見学会」のご案内

（場所）「美濃焼」

多治見市・可児市・土岐市 方面

（日程）平成 22 年 11 月 12 日（金）

13 日（土）（一泊二日）

「美濃焼」は岐阜県南部一帯の、かつての美濃国で焼成された陶磁器の総称で、古墳時代に須恵器が焼かれたことに始まります。瀬戸黒・志野・織部・黄瀬戸など陶芸を志す誰でも知っている名前ですが、作品作りには奥深いものがあります。

今回は、それぞれの道を極めた先生方にお会いし、その作品を拝見し、日頃聞きたかった疑問点などお聴きでき、今後の作陶に生かせる旅になると思います。

（交通手段）

○名古屋駅集合・解散

・今回初めて、現地集合・現地解散にし、各自それぞれの方法で名古屋駅までの往復を行く事にします。（新横浜から新幹線で一時間半くらいで着きます）

・集合してからは、バスで団体行動になり、宿泊も一緒になります。すなわち現地だけ行動が一緒であれば、その前後の日は自由に使えることとなります。

・新幹線回数券や色々な割引が個人やグループで利用できますので、早めに仲間集め

や、一人旅を計画し参加してください。

○これから下見をして本格的に計画をします。詳しくは、十月の広報でお会いできる先生、参加方法、金額などをお知らせいたします。

たくさんの方が参加してくれることを期待しています。

美濃焼の器を集めてみました！

見学会で訪れるかも知れない先生達の作品です。こんな作品と出会えるかも知れません。



瀧口 喜兵衛・織部



堀 一郎・引き出し黒



塚本 満・白磁



林 恭助・黄瀬戸窯変



鈴木 蔵・織部



加藤 康景・（月窯）

第 32 回『友の会作品展』のお知らせ

今年度の『作品展』の日程が決まりましたので、お知らせいたします。

【場所】 横浜市民ギャラリー 一階

【開催期間】平成 23 年 1 月 12 日（水）～ 17 日（月）6 日間

【出展料】 一区画（幅三〇cm） 二千元

【特設コーナー】『豆皿』 ※出展料は無料
詳細は、次回の広報でお知らせいたします。

記

平成 21 年度決算書・22 年度予算書

会員に送られる印刷物でご覧下さい

専修部より

秋季焼成会のお知らせ



さん作

友の会の伝統ある行事であります秋季焼成会は、左記会場・日程にて行います。

今回も前回同様、白化粧(ハケ目・粉引)には気合を入れて取り組みたいと思います。白化粧には赤土が発色等適しているように思われます。また、化粧土を生掛けしますので、作陶後 2・3 日した乾燥状態の作品を、受付日(当日化粧掛けします。)に持参してください。白化粧は初めての方、釉薬掛けの不得手の人も専修部員がお手伝いしますので、多数の参加をお待ちしております。通常 100g 180 円の焼成料(素焼・本焼)ですが、今回、生の作品は 100g 150 円にて受付いたします。

会場・・・横浜市技能文化会館

602号室

(JRR 関内駅南口下車徒歩 3 分)

受付・・・8月29日(日)

9時～11時

施釉・・・9月19日(日)

9時～11時30分

引渡し・・・10月3日(日)

10時30分～

(集合時間厳守)

記

～ HP 委員会から ～
ホームページのアドレスが変わりました。

ホームページの開設、維持を長らく担当して来られた、富永 弘さんが横浜友の会を退会されました。永らくお世話になり、有り難うございました。

尚、新しいホームページのアドレスは、
<http://www20atpages.jp/tomonokai/> です。

★8月半ばには窯場見学会の見学先の資料をアップしますので、HPにアクセスしてみてください。

『辰砂に
魅せられて』



今年入会させていただきました三ツ境在住の と申します。みなさんよろしくお願ひします。

私は若い頃会社の同僚と葉山の『万葉窯』陶芸教室に何年か通ったことがあります。そこで焼いた辰砂の美しさに見とれてしまいま

した。徳利を焼いたのですがもったいなくて使うことが出来ずじまいで仕舞いぱっなしになってしまいました。その後仕事も忙しく、なかなか陶芸の機会にも恵まれず過ぎてまいりましたが、定年後は陶芸をやるうと心に決めていましたので、50代後半になって、瀬谷区内の陶芸教室に通い始め、一から手解きを受けました。しかしながらその教室では辰砂は焼かせてもらえませんでした。仕方なく3年程で教室をやめて自分で窯を持つことになりました。自宅に3帖ほど(庭が狭いのでこれが限界)のプレハブを立て、ロクロと電気窯を設置しました。今年で4年になります。仕事の合間に作陶する程度なのでなかなか上達は致しません。焼成も窯の特性上還元焼成を続けるわけにも行かず、残念ながらもまだ辰砂はまともなもの出来ません。群馬県の月夜野焼、福田祐太郎記念館も見に行きましたが、そこで改めて辰砂の魅力に引き込まれてしまいました。何とか、電気窯で辰砂を焼きたいとの思いで試行錯誤を続けております。

そんな折今年の友の会作品展を見て、出前会長からお話を伺い、入会させていただくことになりました。やはり一人でやっていたもなかなか進歩も無く、限界があります。

これからは各種行事には出来るだけ参加し、諸先輩会員と知り合いになり、いろいろ、お話を伺いたいと思えますので宜しくお願ひします。

『九谷上絵付けの講習会』募集

昨年、東京で窯場見学会は、九谷焼きでした。

後日、東京で見学会の時お会いした先生方が一堂に会した「九谷焼展」の案内があり、そこで、出渕(当時会長)さんが福島武山先生に見学会のお礼を言いに行った時、先生から『上絵付けの講習をしましょうか?』とのお話がありました。

福島武山先生は石川県「伝統工芸士会」の会長で石川県指定無形文化財九谷焼技術保存会会員に指定されている方でもあります。見学会の時、絵の具や筆の購入で組合を紹介してくれました。そこで皆さんがたくさんの買い物をした事を知っていて、そのお札にどの話でした。

その話を受けて事業部でその講習会の開催を担当することになり、武山先生と連絡を取り、次のような要領で開催することになりました。

【日時】 平成 22 年 10 月 19 日午後

【場所】 生麦地区センター(予定)

【会費】 一万円

【懇親会】 参加は希望者のみ。会費は別途

三千元位でお願いします。

【申し込み】 出来るだけ、メールで申し込んで下さい。メール不可の場合は往復葉書

をお願いします。

・申し込みは氏名とメールアドレスを明記

のこと。詳細はメールで連絡します。
往復葉書の宛先は
〒
復信の宛名は明記して下さい。
【メールの宛先】

・申し込みの締め切りは7月末日です。

【その他】白器の準備の希望(皿形)

・実際に上絵付けをやってみたい方は申し込んで下さい。

上絵の具や筆は各自でお持ち下さい。

お持ちでない方は購入先(九谷の組合)を教えます。

・布海苔は、用意します。

展示会開催のお知らせ

沼津穴窯焼成会の仲間(陶和会)で
作品展を開催します。
是非お出かけください。

陶和会 2010

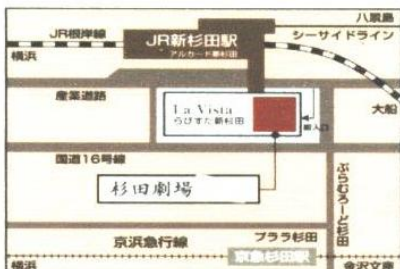
窯窯焼成仲間の作品展(窯窯焼成作品以外もあります)

～らびすた新杉田 4F杉田劇場ギャラリー～
2010年7月29日(木)～8月3日(火)
10:00～19:00(最終日 8/3(火) 13:00迄)



出品者

石川 誠一 石川 光子 鈴木 和子
本橋 昭彦 渡辺 サトル 高橋 光男



★ 横浜陶芸フェスティバル全国公募展に
応募しませんか? ★

(横浜市陶芸センター主催の公募展が開催されます。)

応募受付 22年8月16日(月)～9月15日(水)

展示期間 22年11月3日(水)～11月7日

会場 横浜市陶芸センター

テーマ ① 暮らしのうつわ部門
② 横浜をイメージするやきもの部門

出品料 無料・大賞は電動ロクロ

詳細は下記へ 応募先・横浜アマチュア陶芸展事務局
〒231-0834 横浜市中区本牧三之谷 59-3
横浜陶芸センター内
TEL 045-623-8904 FAX 045-625-9087

Mail info@yokohamasitougeicenter.com

<http://www.yokohamasitougeicenter.com>

もったいないコーナー

陶陶さん

第 65 号

あかほし



お詫び
 142号の新入会者名簿で苗字を間違えました。ここに訂正させていただくと共にお詫び申し上げます。
 誤 正

訃報
 会計監査をしてくださっていた、さんが去る4月18日に逝去されました。いつも穏やかな笑顔で会に参加されていた土屋さんでした。
 心よりご冥福をお祈り申し上げます。



20年友の会作品展出品作

編集後記

春の靄時き、育苗、田植え、草取りまでが7月号発行までの私の農作業でしたが、そろそろ作品展の豆皿の陶作を手掛けなければなりません。
 年々、時の経つのが早くなり、季節の循環も狂ってきたようです。田植えは一間遅れ、味噌の熟成も未だし、何もかも後へ後へと送られ

★『ポットミル機』中古不用品がございましたら広報までご連絡下さい。(広報)
 ★外壁用黒釉(湿った状態で5+) 昔々『作る陶次郎』という本であげますという募集があつて当たらないだろうと思いつつはがきを出したら当選！一度も使用していないのですが、貰ってください。()
 陶芸用品で不要なもの、またほしいもの等ございましたら、是非広報まで御連絡ください。

横浜陶芸友の会だより
 第143号
 (平成22年7月1日発行)

発行人
 横浜陶芸友の会
 会長
 編集責任者
 広報部長

毎年のドタバタは返上したいものです。
 先日、久し振りに本牧同期の金子正寿さんのお宅にお邪魔しました。金子さん今年は米寿ですって・・・相変わらず、たまの作品作りを楽しんでいるようで、嬉しくなりました。
 『広報誌作っていたのが 案外楽しかったよ。自由にやりゃあいいのよ。ワツハツハ』と・・・広報先輩ですものね、私もそう言える日が来るでしょうか・・・
 先輩の金子さん(お顔を存じ上げないが)まさにそのとおり、そうだそうだと・・・
 以前と違って(割付用紙とものさしと計算機片手にまさに割り付けていく作業も大変だが)思うようにならないパソコンに文句を言いながら、夜な夜な夜更かしを・・・でも好きなんですよね。困ったことに